

外国人の人権尊重に関する実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

富山県射水市

○学校名

射水市立東明小学校

○学校のURL

<http://www.toumei-e.imizu.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各2学級、【特別支援学級】2学級、【合計】14学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】330人（平成28年5月1日現在）
（内訳：1年生43人、2年生61人、3年生46人、4年生58人、5年生63人、6年生59人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

特記事項なし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

豊かな心を持ち、たくましく生きる子供の育成

【人権教育に関する目標】

基本的人権尊重の精神を基盤におき、自分と異なる生き方や考え方をする他者の存在を認め、尊重するとともに自らの考えを持ち、それを深めることのできる能力や態度を育てる。

○人権教育に係る取組一口メモ

学校における人権教育の柱を国際理解と交流活動とし、互いの違いを認め合うことで、共に生きようとする児童の育成に努めている。

○人権教育にかかる取組の全体概要

学校生活のあらゆる場面で、偏見をもたずに自他共に尊重し、協力し合う活動を工夫するために、実践的態度が育つ教育活動の充実に努める。

- ・国際理解に関する活動
- ・地域との交流活動
- ・宗教が異なる児童、保護者に対する配慮

3. 実践事例の内容

はじめに

射水市は、人口に占める外国人の割合が、県内市町村の中で最も高く、多文化共生の地域づくりに努めていく必要性を求められている。ロシア、パキスタン国籍が多いことも特色で、本校においても、現在16名の外国籍児童が在籍している。身近に多くの外国人が住んでおり、住民同士が互いに異なる文化や生活習慣、価値観等を認め合いながら、力を合わせて互いに暮らしやすい地域づくりを目指すことで、児童にとっても多文化共生の大切さを学ぶよい機会と捉えている。特に、隣接する富山高等専門学校には様々な国籍の留学生が学んでいる。その留学生との交流会を毎年開催することで、異文化理解につなげている。

また、校区には障害者や高齢者のための施設等があり、様々な立場の人が生活している。そういう人とも交流しながら、互いの違いを受容し、認め合うことの大切さを体感し、温かい人間関係づくりができる豊かな心を育てていきたい。

1 国際理解に関する活動

(1) 外国語活動

本校は昨年度より県の英語教育モデル校に指定され、外国語活動指導員(JTE)以外にも小学校英語教育専科教員が配置されている。授業を行う際には、授業の内容について担任・JTE・小学校英語専科教員の3人で打合せを行っている。本校のJTEはロンドンの日本人学校で勤務していた経験があるため、児童はふだんの授業においても他国の文化について触れながら楽しく外国語活動に取り組んでいる。また、小学校英語専科教員と連携し、2020年の「小学校3年生からの必修化」「小学校5・6年生の教科化」に向け、総合的な学習の時間を活用し3・4年生の英語教育にも取り組んでいる。

(指導計画)

	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目	<ul style="list-style-type: none">英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことを通して、コミュニケーション能力の素地を養う。	<ul style="list-style-type: none">英語を通じて、身近な生活に関わる言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを通して、初歩的な英語の活用能力を養う。
標		

<6年生 外国語活動授業実践例～グループ活動を主体とした外国語活動～>

① 単元名 道案内をしよう Turn right.

② 単元のねらい

- 相手に道を尋ねたり道案内をしたりすることによって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- 目的地への行き方を尋ねたり案内したりする表現に慣れ親しませ、英語と日本語とでは建物の表し方が違うことに気付かせる。

③ 単元の全体計画（全5時間）

- ・町中にある様々な建物等を英語で表現し、日本語との違いを知ろう。
- ・自分の行きたい所への行き方を尋ねる表現に慣れ親しもう。
- ・相手の行きたい所へ案内する表現に慣れ親しもう。
- ・目的地への行き方を尋ねたり案内したりする表現に慣れ親しもう。
- ・私たちの地域にある建物への行き方を尋ねたり相手に分かりやすく案内したりしよう。



体育館の床に建物の写真を置き、英語で道案内をしている様子

④ 成果

外国語活動はグループで楽しく活動することが多いため、児童は英語の得意不得意に関わらず、誰とでも協力しながら仲よく活動している。特に、本校の外国籍児童には英語が得意な児童も多いため、授業で活躍するだけでなく、校外学習等においても周りの児童を巻き込みながら外国人と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。

(2) 富山高等専門学校の留学生との交流活動（イングリッシュデー）

① ねらい

多様な国籍の留学生と交流することで、英語を使って交流することの楽しさを味わうとともに、多様な国の文化や日常的な生活習慣を学ぶことができる。

② 活動内容

本校は、富山高等専門学校の留学生との交流活動を毎年行っている。昨年度までは日本語を話すことができる長期留学生と交流を行っていたが、今年度は日本語を話すことができない短期留学生との交流も行った。

5・6年生の児童は今まで学んできた英語の表現を駆使して日本の遊びについて紹介したり、留学生から自国の文化や習慣について写真等を通して学んだりすることができた。



短期留学生に折り紙を教えている様子



短期留学生と鬼ごっこをしている様子

③ 成果

十分な英語力が身に付いていない児童であるが、遊びや映像等を通して手探りの交流を行うことで、人とつながることの喜びを味わうことができたようだ。また、日本とは違う文化の中で生活している留学生の生の声を聞くことで、他国の文化を理解しようとする意欲が高まった。

2 地域との交流活動

(1) 地域の人との交流活動

① ねらい

自分たちが住んでいる地域の人から地域のよさについて聞くことにより、郷土愛を育むとともに、誰とでも積極的に関わっていこうとする態度を育てる。

② 活動内容

- ・校区内オリエンテーリング

地域のボランティアの人に見守られながら1～4年生だけで、校区全体を使って、オリエンテーリングを行う。

- ・2年生 町探検

本校の校区は3つに分かれているが、児童がそれぞれ行ってみたいところを選び、地域の人から話を聞いてくる。

③ 成果

これらの活動を通して地域のよさを知るとともに、グループで活動することで一緒に活動している友達のよさも分かり、低学年の時から互いに仲よくしようとする態度が芽生えている。また、4年生は校区内オリエンテーリングにおいてリーダーとして活躍しなければならないので、自分のわがままを抑え、誰とでも協力しようとする態度が養われている。

(2) 校区の自治体との交流活動

① ねらい

日頃お世話になっている地域の人のために、自分にできることで協力しようとする意欲を高める。

② 活動内容

海開きやコミュニティーセンター祭り等、地域の行事に積極的に参加して、地域の人との交流を図っている。



地域の安全見守隊の協力を得ながら校区内オリエンテーリングをしている様子



地域の方から地域のよさについて話を伺っている様子



海開きの際に、本校のブラスバンドが演奏を披露している様子

③ 成果

様々な年代の人と関わり、尊敬の念や感謝の気持ちを抱いたり、認めてもらったりすることで、地域への愛着を高めている。また生活経験を積み重ね、広い視野で考えることができる児童が増えている。

(3) 地域の施設との交流

① ねらい

様々な立場の人と交流することで、自分と異なる生き方を認め、尊重しようとする態度を養う。

② 活動内容

毎年、1年生、4年生、ボランティア委員会の児童が校区内にある障害者や高齢者のための施設に出かけ、交流やボランティア活動を行っている。



施設で劇を演じる1年生の様子

③ 成果

低学年から定期的に様々な立場の人と関わることで、互いの違いを受容し、認め合うことの大切さを体感することができる。高学年になるに従い、相手に対する思いやりの気持ちをもつ児童が増えてきている。

3 宗教が異なる児童、保護者に対する配慮

ありのままを受け入れる姿勢が基本となり、教職員自らが範を示すことで、児童への関心と理解を深めている。全教職員で共有している具体的な対策としては下記のもの挙げられる。

- ・服装については、本校で制服を指定していないこともあり、自由としている。
- ・日常の授業については、低学年の学級には学習サポーターを優先的に配置し、TT体制をとっている。
- ・日本語指導が必要な児童には、学年を問わず外国人相談員が個別指導を行っている。また児童の適応レベルによって、地域の学校支援ボランティアの方に協力を頂く機会を随時取り入れている。
- ・宗教上いろいろな制約があり、給食（別メニュー、献立表の配布）、水泳（着替え場所の確保）、PTAバザー（飲食物の成分表の配布）などについては、外国人保護者、PTA役員と密に連携を図っている。
- ・保護者懇談会での通訳や重要書類の翻訳のできる人材の確保に努めている。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

・取組を実施する際に生じた課題

学校で実施される取組には、日程の調整・活動内容の打合せ時間の確保が毎回課題となっている。しかし児童にとっては、幼少期より、地域・学校で培ってきた信頼関係が土台となっており、多国籍に関する問題点は皆無といってよいほどの環境となっている。トラブルが生じそうになった際には、必ず直接会って保護者の言い分を聴き、早急に対応してきている。

5. 実践事例の実績、実施による効果

< Q-U結果より >

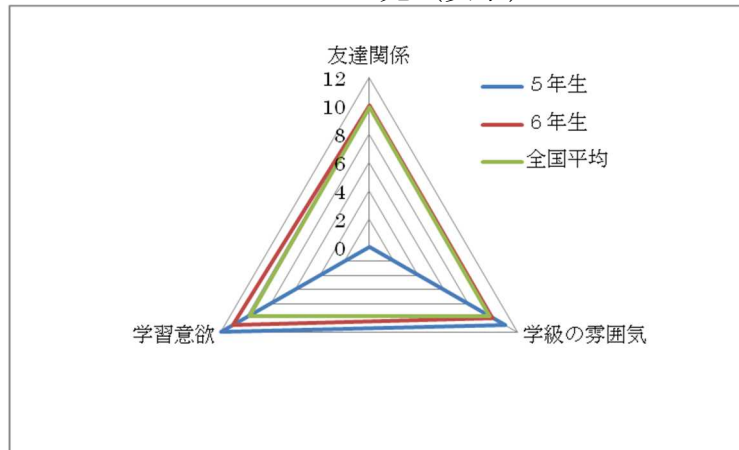
○ 6年生外国籍児童の記録

昨年の5月下旬・本年6月上旬に実施した外国籍児童の調査結果である。友達関係、学級の雰囲気、学習意欲の3項目の満足度最大数値は12である。

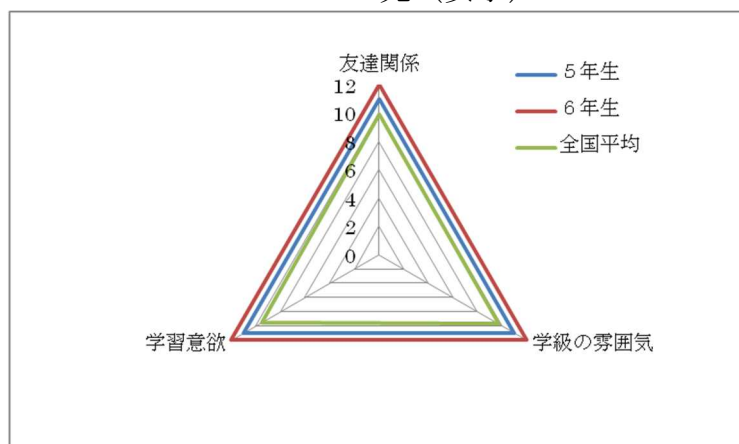
昨年度、A児は4年次におよそ1年間の長期帰国をしていた影響もあってか、友達関係の数値が非常に低くなっていた。また、B児は3項目とも比較的高い数値で、学校生活意欲総合点は高い結果が出ていたが、判定は「学級生活不満足群」に属する結果であった。

しかし、今年度は、2名とも学校生活意欲3項目の数値は高く、判定も「学級生活満足群」に属する結果となっている。

A児（女子）



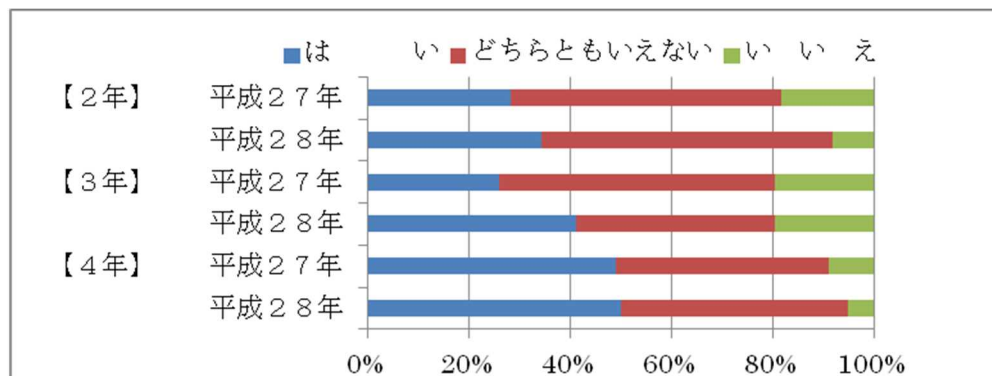
B児（女子）



< とやまゲンキッズ作戦（－健康づくりノート－）アンケート結果より >

【こころ】の質問項目より

○ おもいどおりにならなくても、がまんできる（1～4年生用）



入学後、協働的な学びを通して、相手を受容する態度が、低学年児童にも着実に身に付いてきている結果となっている。

6. 実践事例についての評価

おおむね学校生活においては、大きな問題点はみられず、不登校児童もいない。様々な環境の人と触れ合うことで、自分と異なる人に対してもありのままに受け入れようとする児童が多く、温かい人間関係が育まれている。

外国籍児童の中には、慣習の違いからか、家庭の事情により長期欠席をしたり休日実施の学校行事に参加しなかったりする児童がいる。同じ国籍でありながら宗教上の配慮が必要な児童と不必要な児童が混在するなど、いくつかの課題があるが、学校においては、国籍の違いを感じさせないほど自由にのびのびと活動している。

グローバル化の波が学校にも押し寄せている昨今、今後も国際理解を推進し様々な立場の人との交流を行うことで、児童の心をより豊かに柔軟にしていきたい。